

## 子どもの話を聞く大切さ

ウェイトリー（注1）の詩を紹介します。

---

### 子どもの話に耳を傾けよう。

きょう、少し

あなたの子どもが言おうとしていることに耳を傾けよう。

きょう、聞いてあげよう、あなたがどんなに忙しくても。

さもないと、いつか子どもは年老いたあなたの話を聞こうとしなくなる。

子どもの悩みや要求を聞いてあげよう。

どんなに些細な勝利の話も、どんなにささやかな行いもほめてあげよう。

おしゃべりを我慢して聞き、いっしょに大笑いしてあげよう。

子どもに何があったのか、何を求めているかを見つけてあげよう。

そして言ってあげよう、愛していると。毎晩毎晩。

叱ったあとは必ず抱きしめてやり、

「大丈夫だ」と言ってやろう。

子どもの悪い点ばかりをあげつらっていると、そうやってほしくないような人間になってしまう。

だが、同じ家族の一員なのが誇らしいと言ってやれば、

子どもは自分を成功者だと思って育つ。

きょう、少し

あなたの子どもが言おうとしていることに耳を傾けよう。

きょう、聞いてあげよう、あなたがどんなに忙しくても。

そうすれば、子どももあなたの年老いた過去の栄光に耳を傾けるために、

あなたのもとに戻ってくるだろう（注2）。

---

ウェイトリーの他の本から、例をもうひとつ。クリスマスの日、5歳の子どもを連れてブロードウェイに買物に行った母の話です。

「街には、クリスマスソングが流れ、ウインドウは豪華に飾りつけられて、サンタクロースが街角で踊る。店頭には玩具もたくさん並べられていて、5歳の男の子は目を輝かせて喜ぶにちがいないと母親は思った。ところが案に相違して息子は母親のコートにすがりつき、シクシクと泣き出した。

『どうしたの。泣いてばかりいるとサンタさんは来てくれませんよ』

『あら、靴のひもがほどけていたのね』

母親は、歩道にひざまずいて、息子の靴のひもを結び直してやりながら、何気なく眼を上げた。何も無いのだ。美しいイルミネーションも、ショーウインドウも、プレゼントも、楽しいテーブルの飾り付けも。何もかも高すぎて見えない。眼に入ってくるのは、太い足とヒップが、押しあい、突き当たりながら過ぎていく通路だけだった」（注3）。

---

注1) 南カリフォルニア大学客員教授。能力開発研究家。全米オリンピック委員会心理学部会委員を務めた。

注2) 『自分を最高に活かす』（加藤諦三訳・ダイヤモンド社）85頁。

注3) 『成功の心理学』（加藤諦三訳・ダイヤモンド社）20 - 21頁。